

## 評価結果概要表

【評価実施概要】 作成日 平成19年12月4日

事業所番号	2772401952	評価機関名	特定非営利活動法人 近畿マネジメント・サポート・センター
法人名	有限会社 ハル	所在地	大阪市東住吉区山坂5丁目5番14-103
事業所名	グループホーム はる	評価調査日	平成 19 年 11 月 27 日
所在地	枚方市船橋本町2丁目85番地の7 (電話) 072-856-3021	評価確定日	平成 19 年 12 月 6 日

【情報提供票より】 (平成19年11月14日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成15年 5月 1日
ユニット数	ユニット 1 利用定員数 9人
職員数	9人 常勤 3人 非常勤 4人 常勤換算 5人

## (2) 建物概要

建物の構造	軽量鉄骨 造り 2階建ての ( 1階～ 2階部分)
-------	------------------------------

## (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	42,000円	その他の経費 (月額)	28,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金を含む)	有 200,000円 償却原則として無し			
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,400 円	

## (4) 利用者の概要 (11月14日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢 平均	85才	最低	76才	最高	96才
(5) 協力医療機関名 医療法人 おがわ歯科 医療法人美杉会 佐藤病院					

## 【外部評価で確認された、この事業所の特徴】

理念は「こころのバリアフリーをめざす」で、職員一同は入居者の方々に少しも不安を与えることのないよう、工夫と心遣いの杖となる介護をしている。ホームは川に沿った公園のすぐ横にあり毎日、四季の移ろいを見ながら暮らせる環境にある。職員の会議、研修は毎月2回実施され、各種情報の把握が行われている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題と、その後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	各種の内部書類の記入・作成者の記名と閲覧者の確認サインは漏らさず行われている。内部研修は全員が参加できるよう月2回開催しており、外部研修については逐次、参加できるよう配慮し実施されている。職員全員が自己啓発し、研修に意欲を持って各種の会議、研修会に参加している。2階は家族の面会、地域の方々の集会等に利用されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	ホームの理念が「こころのバリアフリー」で、利用者一人ひとりの毎日の表情や体調に配慮し、自宅での生活と変わらないバリアのない介護を目指している。殆どの職員が開設以来の勤続者であるから、過去の評価も踏まえて、今回の評価の準備と改善に取り組んできている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容、及び、それらを活かした取り組み (関連項目: 外部4、5、6)
	運営推進会議は、包括センターの配慮のうちに2ヶ月毎に開催している。主な内容は会議毎の各種報告で、ホームの運営と対外活動について盛んな議論が行われ、定められた事項については、意欲的に実施している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7、8)
	運営者が殆ど連日、ホームに出て応援し職員を指導している。ご家族アンケートでも苦情、意見は殆どなく、運営推進会議で家族代表の意見もお聞きして対処できている。入居者の各個室は全室が畳敷きで、温かみと転倒時のショック緩和に役立っている。ご家族来訪時の団欒にも重宝されている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	運営者が地域での永年居住者で、自治会の各種役員を継続して就任し、役目を果たされている。ホームは同じ場所の同じ建物を改造して開設しているので、地域との交流は自治会の一員として存在感がある。

（ 部分は重点項目です）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I 理念に基づく運営</b>					
<b>1 理念と共有</b>					
	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	企業理念は「心のバリアフリーをめざして」を掲げている。運営者、管理者、職員は、入居者の一人ひとりに、自宅に居ると同じように違和感を持たないように配慮した介護に当たっている。		
	2	○ 理念の共有と、日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者が殆どの時間に、補助者として控え、バリアフリーの介護を支援している。		
<b>2 地域との支えあい</b>					
	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等の地域活動に参加し、地域の人々と交流することに努めている	運営者が、永年ホームの所在地に居住して現在に至っているため、自治会等の活動は継続して行われている。		
<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員の殆どが開設以来の勤続者で、評価の意義を理解し、改善に取り組んでいる。		
	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている	運営推進会議では、毎回ホーム側の報告を基に熱心に話し合い、介護と地域活動に活かしている。		
	9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の担当者へは、月に一回ぐらい報告を兼ねて訪問している。		
<b>4 理念を実践するための体制</b>					
	14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び、個々にあわせた報告をしている	毎月、写真を多数掲載した「ホームだより」にコメントも記入して送付している。更に、ご家族来訪時には詳細に様子を伝えている。		
	15	○ 運営に関する家族等の意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からは苦情は聞かないが、運営推進会議でも家族代表に出席していただいでいて、話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	9 18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフはホーム開設以来の勤続者が殆どなので、移動によるダメージはない。職員の勤務割りによる担当交代時には、十分配慮しながら実施している。		

## 5 人材の育成と支援

	10 19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の定例会議は2回実施し、勤務日に必ず会議に参加できるように配慮して、研修、情報洩れにならないようにしている。又、外部研修も全員が参加できるように計画している。		
	11 20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて質を向上させていく取り組みをしている	地域内の各ホームの実務者との交流は、あまり出来ていないので検討中。	○	校区単位で、同じホームの運営者や職員との交流が出来ないか、検討してみてください。

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

## 1 相談から利用に至るまでの関係づくりと、その対応

	12 26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みのご家族には面談の上、ご本人には見学来訪を勧めている。		
--	-------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------	--	--

## 2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援

	13 27	○ 本人と共に過ごし、支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの経営理念「心のバリアフリー」を管理者・職員が実践しようとしている。入所者一人ひとりのホームでの生活が自宅との違和感を持たないよう配慮しながら支援している。		
--	-------	------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------	--	--

## III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

## 1 一人ひとりの把握

	14 33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で言動、感情や表情などを、しっかりと受け止めて介護支援に努めている。		
--	-------	---------------------------------------------------------------	-------------------------------------------	--	--

## 2 本人がより良く暮らしを続けるための介護計画の作成と、見直し

	15 36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員の日常の介護支援の中での気付きと、家族の意向も汲んで職員の会議で情報交換し、介護計画の資料としている。必要な情報は記録されて計画の資料としている。		
--	-------	----------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------	--	--

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月2回職員の会議で、入居者の症状の変化に気が付くと、情報交換を相互に行って、期間に拘わらず関係者と相談の上、計画変更を行っている。		
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や、家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	出来る限り各種の事情を見て、対応できる範囲内で支援している。		
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な治療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医への受診支援を行っている。		
19	47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期については医師、家族とホーム側とで話し合い、延命治療については、ご家族から同意書を頂いている。		
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1 その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○ プライバシー確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員の研修会で受講職員から研修報告を聞いて学んでいる。受講記録や資料類は回覧し、後はファイルされている。		
21	52	○ 日々の、その人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの経営理念である「心のバリアフリー」を実践し、我が家での生活と同じ感覚で過ごして頂くように、支援している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が交代でメニューと炊事を行っていて、季節感やリクエストを聞いた上で、食事が用意されている。カロリーチェックも行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	23	57	<p>○ 入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		週2回の入浴が原則的に行われているが、銭湯を希望される方の要望にも応じている。

## (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

	24	59	<p>○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		精神的に不安定にならないように好きなことを、好きなだけやってもらっている。
	25	61	<p>○ 日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの、その日の希望にそって戸外に出かけられるよう支援している</p>		個別対応で、好きな時に外出に応じられるように努めている。

## (4) 安心と安全を支える支援

	26	66	<p>○ 鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		建物の構造上、玄関が職員の視野外になるので、チャイムを設置している。ホームの前は、市内幹線道路となっているので已むを得ない面もある。
	27	71	<p>○ 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		年2回の避難訓練と、年1回は消防署員の指導を受けている。緊急用マニュアルは作成し、見やすい場所にある。

## (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

	28	77	<p>○ 栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		メニューは同じであるが、食物の形態は個別に対応している。摂取量等は記録されている。
--	----	----	-------------------------------------------------------------------------------------	--	-------------------------------------------

## 2 その人らしい暮らしを支える生活習慣づくり

## (1) 居心地のよい環境づくり

	29	81	<p>○ 居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		既設家屋を改造しているので新築のようなバリアフリーにはなっていないが、居心地を良くする様、日頃から介護に配慮されている。壁には季節感の掲示物を職員と一緒に作成している。部屋の表札も手作りで分かりやすい。共用空間の居心地、空調、照明等の調節も配慮されている。
	30	83	<p>○ 居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		居室は全室、畳敷で洋間と違って温かさを感じさせる。ベッドからの落下や室内での転倒にも役立っている。